

◆福岡・3児死亡事故争点表◆

	検察側	弁護側	1審判決	控訴審判決
酔いの程度	飲酒量や言動・行動から、酔いの程度が極めて大きかった	飲酒検知結果は呼気1ℓあたり0.25mgであり、酒気が帯び状態にすぎなかった	飲酒検知結果は「酒気帯び」であり、酔いの程度が相当大きかったと認定できない	相当量の飲酒や言動・行動などから、相当に酒に酔っていることを自覚していた
運転への影響	正常な運転が困難な状態だった	正常な運転が困難な状態ではなかった	正常な運転が困難な状態だったとは認められない	正常な運転が困難な状態にあった
事故原因	前方への認識能力を著しく欠き交通状況を把握できなかった	逮捕時から供述している通り、脇見運転で前方不注意になった	漫然と進行方向右側を脇見したのが原因	前方注視が困難な状態で直前まで被害車両を認識できなかった

福岡3児死亡

識者「妥当」「不明確」

危険運転 裁判員控ええ両論

福岡市の3児死亡事件 死傷罪を適用した15日 控訴審判決について、福岡高裁判決について、有識者や専門家から問題点が露呈した。たとえ同罪の構成要件や適用基準の不明確さを指摘する意見も。21日に裁判員制度が始まるが、適用を巡る危険運転が揺れている。裁判員が判断したら解釈が

辺影を手に判決に聴き入る大上哲央さん(左から3人目)、かおりさん(同2人目)夫妻ら＝福岡高裁で、イラスト・牛嶋今日児



らに賛否の声が上がった。「法律そのものの念する意見も相次い問題点が露呈した」と。同罪の構成要件や適用基準の不明確さを指摘する意見も。21日に裁判員制度が始まるが、適用を巡る危険運転が揺れている。裁判員が判断したら解釈が

両親「思い伝わった」

3児の両親、大上哲央さん(36)、かおりさん(32)夫妻は閉廷後、件から2年9カ月。本真が判断したら解釈が

懲役20年が言い渡された瞬間、2人は驚いたように顔を見合合わせた。哲央さんはその時の気持ちを「胸がいっぱいになった」と表現した。被告側が哲央さんの急ブレーキや居眠り運転を主張し、大上さん夫妻は周囲から中傷を受けた。控訴審判決は大上さん側の過失を明確に否定した。「居眠り運転とはいえない」との裁判長の言葉を強調しながら聞いたかおりさん。会見で

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で



今林大被告

「悪質性がきちんと裁かれたんだと胸にこみあげるものがあった」と語った。出廷しなかった今林大被告(24)に対して、無念の思いをあらわにした。「私たちはいつも過影を見ないといけな。そのことがどうもつらいか、分かってほしくて持ってきたのに残念」と怒りを込めた。やっこの思いでつんだ危険運転致死傷罪の認定。だが、その道徳のりはあまりに険しく長く、喜びの表情にも疲労がにじむ。「子供たちに言葉をかけたら?」。そう聞かれ「家族でゆっくりにしたいね」と過影を見つけたかおりさん。会見で